

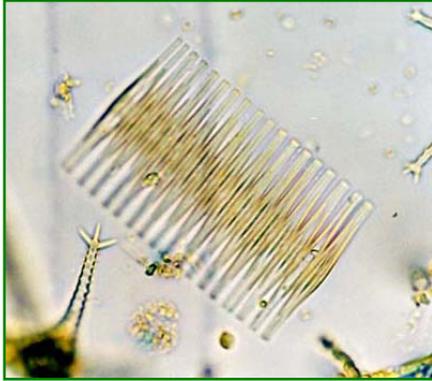
# 瀬田川プランクトン調査結果速報

～第51報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
生物圏担当  
平成22年3月23日

## 1. 最も数が多かった種類(優占種)

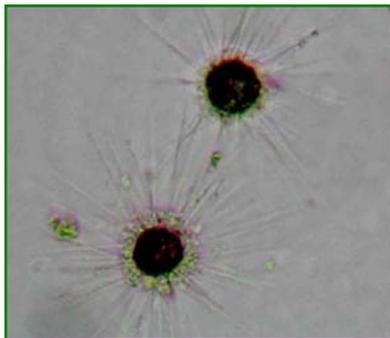
植物プランクトン第1優占種



*Fragilaria crotonensis*  
(オビケイソウ)  
珪藻綱

多数の細胞が中央殻面で互いに接しあつて、帯状の群体を形成して浮遊する。

動物プランクトン第1優占種



*Raphidiophrys* sp.  
(ラフィディオフリス)  
太陽虫類

体は球形で放射状に有軸仮足を出す。有軸仮足の根元は粘液と多数の骨片におおわれている。

### コメント

植物プランクトンでは、先週に引き続き珪藻に属するオビケイソウ(*Fragilaria crotonensis*)が優占種となった。体積で見てもオビケイソウが優占種であった。オビケイソウは先週の約3倍に増加し、珪藻類が総体積の約84%を占めた。なお、その他の緑藻とした種は、*Klebsormidium* sp.(クレブソルミジウム)が10細胞/mlであった。動物プランクトンでは、太陽虫のなかまのラフィディオフリス(*Raphidiophrys* sp.)が120個体/Lで優占種となった。ピコ植物プランクトンは、輝橙色のものが630細胞/ml計数され、深赤色のものは見られなかった。

## 2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

### (1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/L)
肉質虫類	<i>Raphidiophrys</i> sp.	120

第 2 優 占 種		個体数 (個体/L)
甲殻類	Nauplius	20

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

# 瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
生物圏担当

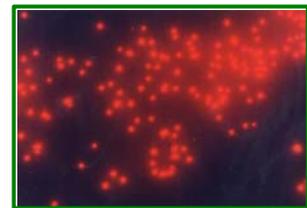
## (2) 植物プランクトン

平成22年3月23日

第51報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)		
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	300		
(黄鞭) <i>Mallomonas fastigata</i>	1		
(珪) <i>Melosira varians</i>	8		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	10		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	5400	◎	◎
(珪) <i>Fragilaria capucina</i>	23		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	950	○	○
(珪) <i>Synedra acus</i>	10		
(珪) <i>Synedra</i> sp.	30		
(珪) <i>Cocconeis placentula</i>	10		
(珪) <i>Cymbella</i> sp.	1		
(珪) <i>Navicula</i> sp.	20		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	140		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	130		
(緑) <i>Eudorina elegans</i>	32		
(緑) <i>Tetraspora lacustris</i>	64		
(緑) <i>Pediastrum boryanum</i>	16		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	1		
(緑) その他の緑藻	10		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	301	4.2	3.1
(珪) 珪藻綱	6462	90.3	83.8
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	270	3.8	9.4
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	123	1.7	3.7
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	7156	総体積	2.77E+06
種 類 数	19	(μm <sup>3</sup> )	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)  
ただし\*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン  
1,000倍G励起で撮影

## (3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	3月23日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	630

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが0.2~2 μm(1 μmは1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。